

http://www.labornetjp.org
レイバーネット
 日本から世界から
 はたらくものの
 情報ネットワーク

News Letter

No. 20

2006年4月25日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原2-22-17-403

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8590 FAX 03-3530-8578

フランス労働者・学生・高校生の勝利！ 新自由主義路線にノン

湯川順夫(会員)



フランス政府は、ついに新規採用契約(CPE)を撤回した。今年、1月中旬から始まった反CPEの闘いは、3月末からかつてない大衆的規模に到達し、4月4日には、全国の86大学のうち68大学がバリケード封鎖に突入し、1000の高校が闘いに決起し、国鉄、電信、電話などのストライキにフランス経済は麻痺状態に陥った。学生と高校生から始まったこの運動は、労働者との連帯を築き上げた。労働者の中でもこの間、資本の全面的攻撃に直面して守勢を余儀な

くされてきた民間労働者も闘いに参加し始めた。こうして、3月28日と4月4日と抗議の統一行動日の大衆動員は、連続して300万人を超えるというかつてない規模に達した。

巨大な大衆動員は、下からの直接民主主義的な組織化によって実現された。AG(大学では学生総会=学生大会、高校では高校総会)が各校で開催され、このAGの中で要求、闘いの路線、代議員の選出が民主的な投票によって決定され、ここで選出された代議員が集まって全国共闘会議が開催され、そこで全国方針が討論され、確認されていった。また地区でも、学生、高校生、労働組合の共闘組織が形成されていった。かつてない大衆的な動員は、こうした直接民主主義的な組織化によってはじめて可能となった。

これは、フランスの学生、高校生、労働者の2カ月におよぶ闘いの勝利である。シラク、ドビルバン、サルコジの政府は、全面的な新自由主義路線を強引に推進しようとしてきた。しかし、この政府は、年金改革をめぐる2003年の闘いでも地方選でも欧州憲法条約をめぐる国民投票で、そして今回のCPEをめぐる攻防でも、民衆によって拒否された。議会選挙のレベルでも、街頭でも、職場でも、この政府はすでに正当性を失っているのである。

来年、2007年の大統領選挙を待つことなく、闘いによってこの政府を追撃し、打倒しなければならない。

レイバーネット日本 4月例会

フランスCPE反対闘争の現場から

若者を解雇しやすくする「新規採用契約」(CPE)に対して、フランスの学生・労組などが空前の規模で反対運動を展開した。その現場で活動しているエルワンさんから直接お話を聞きます。

報告 エルワン・ケレン氏

(フランス郵便労組 SUD-PPT メンバー)

* 現地映像上映予定

とき 4月27日(木)午後6時30分~9時

ところ SKプラザ5F会議室

(飯田橋駅東

口7分・ホテル

エドモンド

手前ビル)

参加費

一般600円(会

員400円)

主催:レイ

バーネット

日本

TEL03.3530.8590



希望がわいてくる春

CPE撤回のニュース、驚くと同時についにヤッターという感じでした。ほんとうにうれしいニュースでした。この1ヶ月くらいずっとやきもきしてましたから。

3月28日も4月4日も300万のデモだったのに政府の姿勢は固かったですね。でもフランスの青年、市民、労働組合の結束の力はすばらしかった。かれらは、ストライキと街頭闘争で国の政策を撤回させ、国家はそこに住む人々のためにあること、議会制民主主義が機能しないときには市民や労働者の直接行動によって国の政策を変更させることができることを、身をもって示した。

新自由主義との本格的な闘いがヨーロッパで始まった。同じような雇用法案を用意しているドイツや他の国への影響は必ずあるだろう。南米はすでに新自由主義のくびきを脱しつつある。韓国の労働者も闘っている。こうした流れは日本にも何らかの影響を及ぼすはずだ。希望がわいてくる春だ。(S)

レイバーネット日本の2006年総会開催

現場からの情報発信者を育てよう

レイバーネット日本の2006総会は、3月4日、東京・SKプラザホールで開催された。約40名が集まり盛況のうちに終わった。第一部では、伊藤代表・河添事務局長が、レイバーネットの「運動メディアとしての役割」をレベルアップしよう、そのためにもメディアアクティビスト(レイバーネット通信員)を意識的に育てようと呼びかけた。それを受けて、活発な質疑があった。「現場にいる私たちこそが情報源」「マスコミに頼らず自分たちで発信する力をつけよう」「運動することと伝えることは同じくらい大事」等々、意見が出された。また、新たに新運営委員も選ばれ、6年目に入った会の飛躍をめざす総会になった。また、二部の特別イベントでは「たたかいと文化」をめぐって、問題を深めることができた。



2006年度の活動方針(要旨)

1. 運動の飛躍をつくるために 運動の現場からの情報発信者を増やす

レイバーネット日本は2001年2月に発足以来、5年間で62万7000ものアクセスを得ている。2004年総会時が25万6000、2005年総会時が43万2000なので、アクセス数は落ちることなく安定して伸びている。社会運動関連の情報サイトとして、ある程度の評価を得ているといえる。マスメディアになかなか載らない労働運動や反戦運動や新自由主義グローバリゼーションに反対する国際的な運動を報道しているニュースサイトとして評価されているということだろう。

しかしながら、レイバーネット日本は、労働運動の発展を願う多くの個人・団体の情報ネットワークとして安定したアクセス数は維持されながらも、飛躍を作り出すことはできずにいるのもまた事実である。その最大の理由は、情報発信者の圧倒的不足である。レイバーネット日本の会員の多くは、全国各地・世界各地で活動している活動家であるが、情報発信をしている会員はまだまだ少数である。現場の活動家がメディア・アクティビストになることがもっとも重要である。伝えるべき情報をもっとも持っているのはいうまでもなく、現場の活動家だからである。また、発信者を増やすためにも、さらなる会員拡大が必要である。

2. ウェブサイトの充実のために(1)インターネット放送(2)海外情報の充実、国内情報の海外への発信(3)文化情報の強化などに力を入れたい。

3. レイバーネットアジアのウェブサイトを発展させる

連絡体制や翻訳体制を確立して、日本やアジアの情報を世界に発信できるようにすることをめざす。

4. メディアセンター的な役割を追求する

メディア・アクティビストが集まって活動できるメディアセンター的な役割を追求する。動きつつあるアジアメディアセンター(仮)設立運動とも協力しながら進めたい。

5. メディア・アクティビストの育成を進める
情報発信者を増やすためには、メディアに関連する技術を使いこなす活動家を目的をもって意識的に育成することが不可欠である。そのためにも、技術講習会を定期的で開催していく。

6. レイバーフェスタ2006にむけて全面的に協力する

レイバーフェスタ2005は、映画・音楽企画・3分ビデオともに大好評で大きく成功した。大阪でのレイバーフェスタも2回目となり定着しつつある。レイバーフェスタを今年も成功させる。

7. 例会の年3回程度の定例化

昨年は、5月にJR西日本尼崎事故に関する緊急集会を開催した。8月には納涼交流会として、NHKの番組「トラック列島3万キロ」の一部参考上映しての交流会をもった。秋以降はレイバーフェスタの準備に追われてしまったが、年に3回程度は定例化する。

8. ニュースレターの定期発行

ニュースレターは定期的に発行されている。内容も充実させながら発行していきたい。

9. 関西をはじめ東京以外でのレイバーネット日本のネットワークを作る

関西でも例会などを開き関西でのネットワークを強めていく。その他の地域でも可能性のあるところでは積極的にネットワークを作っていく。

10. レイバーネット日本を知らせるリーフレットの作成

会員を拡大することなしには財政的にも逼迫し活動がたちゆかない。会員拡大用のリーフレットを作成してレイバーネット日本を知ってもらおう。

11. NPO法人化をめざす

サーバーや回線の確保や財政の確立をはかるために、運動団体からの援助や公的援助を受けやすいようにNPO法人化をめざす。

<3ページ下段に続く>

特別イベント「たたかいと文化」 文化を通してアイデンティティを形成する



希望の歌 コッタジ

レイバ- ネット総会第二部は「たたかいと文化」をテーマに、「コッタジ」のビデオ上映後、韓国の音楽活動家パク・ミヨンさんとメディア活動家イ・ヨンチェさんが報告した。報告は韓国の労働歌謡の歴史を中心に、労働文化運動の広がりとその本質をあざやかに指し示すものだった。以下、おふたりの報告を要約する。

* * * * *

韓国では労働歌謡を学ぶことは労働運動に入るきっかけとなっている。韓国の労働歌謡は1987年の労働者大闘争と呼ばれるゼネスト闘争から始まった。ストライキ期間中、労働者は歌をうたって互いの気持ちを共有し、連帯感をたかめた。始めは大衆歌謡や軍歌が歌われたが、闘争のなかで労働者の詩が作られそこから労働歌謡が誕生した。ゼネストを支えたのが歌だった。この時期多くの職場に歌サークルが生まれ、文化団体も作られた。

初期の歌は軍隊の行進曲風が多かった。しかし90年代のキム・ユンサン政権時代には、ストや集会も減り労働歌も闘争歌というより労働者の生活やその内面をえがく歌が作られるようになる。コッタジもこの頃結成された。そして97年のIMF通貨危機で韓国にはふたたび労働者意識を反映した歌が出てくる。新自由主義時代にどのように生きていく

べきか、もう一度闘うべきではないかというような歌だ。そのなかで今を象徴する歌が「非正規職撤廃歌」だ。歌はそれぞれの時代を反映してきた。

歌や詩、小説など労働者文化はなぜ必要なのか。それは労働者が自らのアイデンティティをそれらを通して形成していくからだ。90年代半ばからは映像、インターネットも労働者文化のメディアとして駆使されている。韓国に比べて日本の労働運動の情報発信力は非常に弱い。いま若いメディア活動家をつくらなければ日本の運動に未来はない。

* * * * *

報告後の討論も活発だった。「コッタジの歌は日本では30年前の感覚で、若者に支持されそうもないが、韓国ではどうなのか」という問いには、「韓国での民衆歌謡や労働歌謡の基盤は広い。特に87年からの運動に参加した人たちは涙が出るほどこうした歌を愛している」コッタジのCDは30万枚売れたこともある。ストライキでコッタジは歌う。ストの後ろに見える音楽文化だ。コッタジも大衆性との間で妥協しているところもあるが、逆にいまこそ労働者としても自分のことばをはっきりだすべきだと思う。今の韓国の労働者は現場で言葉をもっている。労働者の強さの理由はそこにある」という答えが返ってきた。

たたかいは文化を生み出し、文化がたたかいを進めるといふ両者の関係を韓国の労働文化運動は自らの体験として積み重ねてきた。「ストライキを維持するための歌」というのはわかりやすく、しかも切実だ。そういうところから労働者の自己表現としての歌(文化)が量、質とも充実しそれがまた闘いを励ましてきたのだ。そしてイさんが強調された「労働者が自分のアイデンティティ-を獲得する」ということは、労働者が自分を解放するための条件ともいえる。その意味でもレイバーネット日本やレイバーフェスタが果してきた役割はけっして小さくはないと思った。日本でもたたかひの準備は始まっているのだ。

佐々木有美

<2ページからの続き>

【2006年度役員】

代表 伊藤彰信(全港湾)/副代表 松原 明(ビデオプレス)/同 安田幸弘(市民電子情報網)/事務局長 河添 誠(首都圏青年ユニオン)/事務局次長 武田 敦(首都圏青年ユニオン)/運営委員 浅井真由美(協同センター・労働情報)/同 安斎徹雄(出版ネッツ)/石川正志(闘う闘争団に連帯する首都圏の会)/岩川保久(民衆のメディア連絡会)/尾沢邦子(コッタジ応援団)/木下昌明(映画評論家)/佐々木有美(ビデオプレス)/神野圭介(首都圏青年ユニオン)/高幣真公(A P W S L 日本委員会)/竹田和夫(ジャパンユニオン)/田島省三(国労闘争団)/中野 聡(山谷労働者福祉会館)/長岡義幸(出版ネッツ組合員)/西本敏子(神奈川シティユニオン)/新田 進(小川町シネクラブ)/広浜綾子(出版ネッツ)/松浦 望(NTT関連労働組合)/杜 海樹/安田浩一(ジャーナリスト)/八幡純一(国労組合員)/同<大阪>小山帥人(ジャーナリスト)/同<大阪>山原克二(ゼネラルユニオン)/会計監査 下見徳章(「伝送便」編集委員)

【2005年度会計報告】

(2005/1/1 ~ 2005/12/31)

<2004年度からの繰り越し> 423,781円

<収入の部>

会費(207人分) 620,000円/総会・集会参加費 49,000円
カンパ 36,020円 / 小計 705,020円

<支出の部>

ニュース印刷費 81,106円/ニュース発送費 88,000円/印刷費 33,534円/会場費 20,600円 講師謝礼 25,000円/ネット関係費 205,243円/文具 19,190円/通信費(切手等)26,800円/交通費 46,780円/雑費(コピー等)9,769円/振込手数料 520円/郵便振替手数料9,350円/事務所委託費 60,000円/カンパ70,000円/小計 695,892円

<2005年度差し引き> 9,128円

<レイバーフェスタ2003貸付金入金> 35,400円

<2006年度への繰り越し> 468,309円

<文化情報>

映画『三池』が投げかけるもの

ドキュメンタリー映画『三池 終わらない炭鉱の物語』(熊谷博子監督)が、東京・東中野のボレポレ東中野で劇場公開中(モーニングロードショー)だ。“三池炭坑”という言葉で連想することといえば「大争議」「強制労働」「大事故」というのが代表的なところなのかも知れないが、映画では、事故や争議の際に夫や子どもたちを支えた主婦の姿、自らが炭鉱労働者として働いた女性労働者の存在、じん肺となり病とともに今を生きる元炭坑労働者の姿など、生の人間の姿、生活の局面が随所に描かれている。三池炭坑は確かに過去のことかもしれない。しかし、映画が私たちに迫り、訴えているのは、まぎれもなく今現在のこと。そして、この映画が投げかけたことに対する答えは、私たちがこの先考えなければならぬ未来の問題としてもあるのだろう。

杜 海樹



映画『三池 終わらない炭鉱の物語』から

今回のイラク戦争でも米軍は大量の劣化ウラン弾を使用した。その汚染被害はイラク住民だけでなく、米軍兵士にも及んだ。このビデオで被爆した米軍兵士と家族が生々しく証言している。

ビデオプレス TEL03-3530-8588 FAX03-3530-8578 両作品ともビデオあり。

週刊金曜日の単行本『JRのレールが危ない』

レールの破断が相次ぐ「JR東日本」、高架・橋梁のコンクリートがボロボロの「JR西日本」。日本の鉄道で何が起きているのか。レイバーネット会員でもあるジャーナリスト安田浩一氏の渾身のルポ。945円。レイバーネット日本事務局で取扱い中。

ビデオブレスの新刊DVD

『希望の歌 コッタジ』(70分・3500円)

韓国労働運動が生んだ代表的音楽グループ「コッタジ」。昨年12月の来日コンサートをライブ収録したもの。「人は花より美しい」「反撃」「呪文」「岩のように」など魂を揺さぶる15曲が収められている。

『ポイズン・ダスト - 米軍による劣化ウラン汚染』(米国作品・30分・3500円)

新入会の弁 ~ フランスのデモを眺めながら

西中誠一郎

自己紹介として何を書くか迷いテレビをつけると、先日来レイバーネットのML上でも話題になっているフランスの若年労働者使い捨て政策「CPE」に反対する街頭デモの映像が流れていた。白人系・移民系を問わず若者たちが一体となり、街頭を埋め尽くして行進をしている姿を見ながら、東京周辺で出会ってきた非正規滞在外国人や難民たちのことを思い浮かべた。

私は98年頃から難民支援や入管問題に関わっている。昨年まで入国管理局への面会活動も頻繁に行ってきた。そこで出会うのは空港で上陸拒否されたり、家族から切り離されて収容され、強制送還に怯えながら無期限に長期収容されている難民たちや、正規化される機会を失ったまま長年日本で暮らしてきた末に摘発・収容された移住労働者たちなどの姿だった。仮放免されてもその日から生活の糧を捜さなければならず、退去強制令書や難民不認定の取消を求めて訴訟を起こしても敗訴すれば再収容の恐怖に怯え、極めて不安定な状態に長年置かれてきた人たちが多い。

日本に滞在する非正規滞在外国人約20万人。日本政府は彼らを犯罪者扱いし、すべての社会的権利を

認めず、国外追放する出入国管理政策ばかりを強化してきた。外国人労働者を差別化し、バブル経済期同様に労働力の調整弁として扱っている現状は、日本社会全体を覆っている非正規雇用の拡大やストラ問題にも繋がっている。

フランスの若者たちの抗議デモの映像を眺めながら、正規化を求めてデモをするこじとすら難しい日本の非正規滞在外国人問題を現状を重ね、移民・難民二世・三世と日本のが若者たちが一緒にデモをしている姿を夢想した。



4月1日、一年ぶりにレイバーネット日本の技術講習会を開催。会員2人が参加し、イベント欄やニュースの投稿の仕方などを熱心に学んだ。

レイバーネット日本の会員になりませんか

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合で個人で全国にアピールする絶好の場所です。

年会費 3,000円

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本

郵送宛先 〒173-0036 東京都板橋区向原2-22-17-

403 レイバーネット日本事務局

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org

電話 03-3530-8590 ファクス 03-3530-8578

年会費納入のお願い

期限が過ぎている会員には振込用紙を同封しましたので、早急に年会費(個人・団体とも3,000円)の納入をお願い致します。(事務局)

(イラスト: 広浜綾子)

